

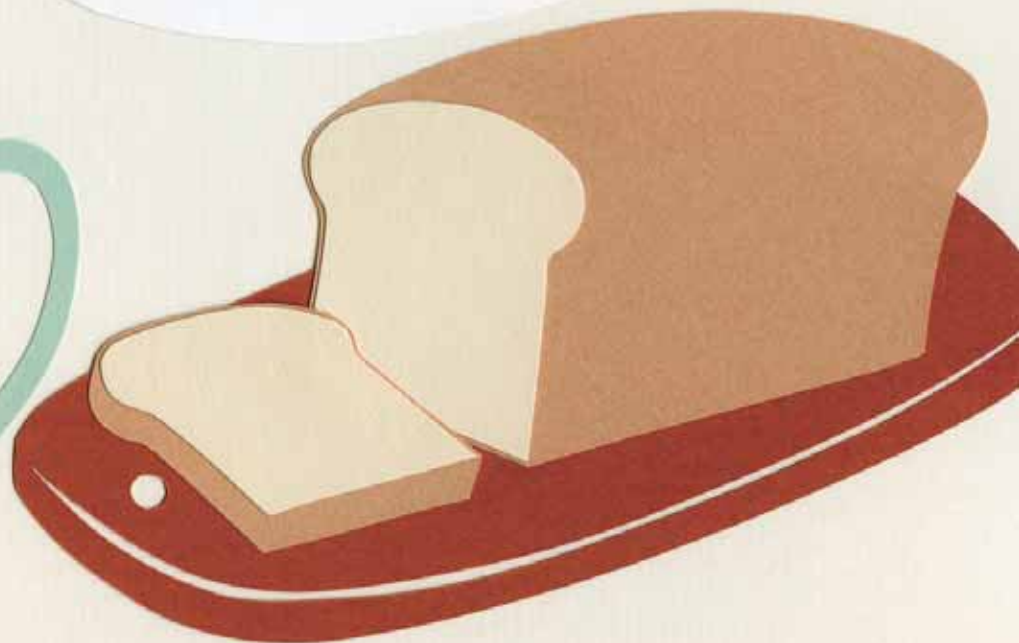
健康と信頼をお届けする



日清製粉グループ

日清製粉グループ
社会・環境レポート
2011

結ぶ心、 つなげる未来



日清製粉グループの経営理念体系

企業理念

日清製粉グループは「信を万事の本と為す」と
「時代への適合」を社是とし、
「健康で豊かな生活づくりに貢献する」ことを企業理念として、
生活産業をグローバルに展開してゆきます。

経営基本方針

日清製粉グループは「信」と「時代への適合」並びに
「健康で豊かな生活づくりに貢献する」基本的理念を踏まえて、
グループ全体の「長期的な企業価値」の
極大化を経営の基本方針とし、
コア事業と成長事業へ重点的に資源配分を行いつつ、
グループ経営を展開します。

日清製粉グループ各社は
これらの基本的理念を共有しつつ、
「自立と連合」を旗印に事業活動を推進します。
即ち各々の事業特性や業界環境に対応して
自立性を発揮し最適な事業展開を行うとともに、
グループ内外の企業と連合し発展を目指してゆきます。

同時に法令遵守・食品安全・環境保全等の
社会的責任を果しつつ自己革新を進め、
顧客・株主・社員・取引先・社会等の各ステークホルダーから
積極的に支持されるグループになるよう努めます。

日清製粉グループの 企業行動規範・ 社員行動指針

- 1 健全な事業活動と
持続的な発展
- 2 安心・安全で高品質な製品・
サービスの開発と提供
- 3 人間性の尊重
- 4 社会規範の遵守と
公正な企業活動の推進
- 5 適切な広報活動の推進
- 6 環境保全の推進
- 7 社会貢献活動の推進
- 8 現地に根ざした
海外事業の推進
- 9 本規範及び指針の
実現に向けての
経営者の役割と責任

「日清製粉グループの企業行動規範」
<http://www.nisshin.com/csr/vision/model/>

「日清製粉グループの社員行動指針」
<http://www.nisshin.com/csr/vision/principle/>

お読みいただくにあたって

本レポートは、ステークホルダーの皆様に、日清製粉グループの社会的責任に対する姿勢や取り組みをわかりやすくかつ誠実にお伝えすることを目的に発行しています。

2009年度より、当社ウェブサイト「CSRの窓」と社会・環境レポートの2つの媒体で、当社のCSRを報告しています。「CSRの窓」では、CSRに関する取り組みの全体を紹介しています。また、本冊子では当社グループが重要であるとする課題に対する具体的な取り組みを中心に、わかりやすさに配慮して紹介しています。

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ レポートリング ガイドライン」第3版
環境省「環境報告ガイドライン」（2007年版）
ISO26000「社会的責任に関する手引」

報告範囲

【対象期間】

2010年度（2010年4月1日～2011年3月31日）の事象について報告しています。

【対象組織】

原則として（株）日清製粉グループ本社および連結子会社・持分法適用関連会社48社（2011年3月末現在）を対象にしています。グループ全体の情報を十分に把握できていない事象については、報告の都度、対象組織を明示しています。なお環境報告の対象範囲は、（株）日清製粉グループ本社および連結子会社合計39社となっています。

結ぶ心、 つなげる未来

日清製粉グループ
社会・環境レポート 2011



表紙コンセプト[切り絵制作:山本祐布子]
社会・環境レポートの表紙は、人々の健康や幸せを生み出す多様な食卓づくりに寄与していきたい、という想いを込めて作成しています。2011年は、朝の光が差し込む「海の見える食卓」をイメージしています。

1 日清製粉グループの経営理念体系
お読みいただくにあたって

2 目次

3 事業概要

5 社長メッセージ

9 災害への対応

東日本大震災における
日清製粉グループの
対応についてのご報告

13 ステークホルダーとの対話

責任ある消費行動のための
企業と消費者のエンパワメント

17 私たちが大切にしたいもの

「健康と信頼をお届けする」
ストーリー

19 環境報告ダイジェスト

地球環境とのかかわり

21 第三者意見

22 コミュニケーションツールのご紹介

前回の報告書以降に発生した事業変更など

【持株会社】

- ・フランスのユーロジャーム社と業務提携契約を締結し、同社の株式を一部取得(2010年6月)
- ・オリエンタル酵母工業(株)と(株)NBCメッシュテックの株式について公開買付け実施(2010年7月)
- ・ホソカワミクロン(株)の株式を一部取得(2010年11月)

【製粉事業】

- ・日清製粉(株)北見工場を閉鎖(2010年11月)
- ・日清製粉(株)北海道小麦センターを設立(2010年12月)
- ・日清製粉(株)が2014年に福岡市臨海部に新工場を建設し、同時に鳥栖、筑後の2工場を閉鎖することを発表(2011年1月)
- ・日清製粉(株)が阪神サイロ(株)の株式を追加取得し連結子会社化することを決定(2011年3月)

ステークホルダーの呼称について

本レポートでは、「お客様」とは、「消費者の皆様」および「お客様」を指しています。

発行日について

2011年11月(前回 2010年10月 次回 2012年9月予定)

お問い合わせ先

(株)日清製粉グループ本社 技術本部 環境管理室
TEL 03-5282-6570 FAX 03-5282-6155

ウェブサイトのご案内

 詳しくはウェブサイトをご覧ください。

上記のアイコンのある項目は、ウェブサイト「CSRの窓」でより詳しい情報を紹介しています。
<http://www.nisshin.com/csr/>
本レポートp22もあわせてご覧ください。

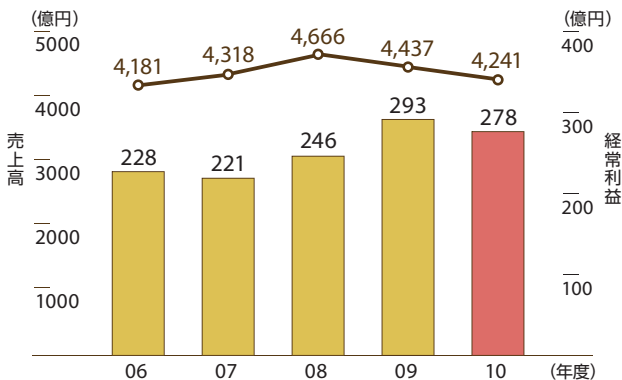
事業概要

日清製粉グループは、2001年7月に分社し、現在は持株会社である「日清製粉グループ本社」と111年の歴史を持つ製粉事業を通じて培った技術を起点に、「加工食品」「中食・惣菜」「酵母・バイオ」「健康食品」「ペットフード」「エンジニアリング」「メッシュクロス」の分野で事業戦略を展開しています。

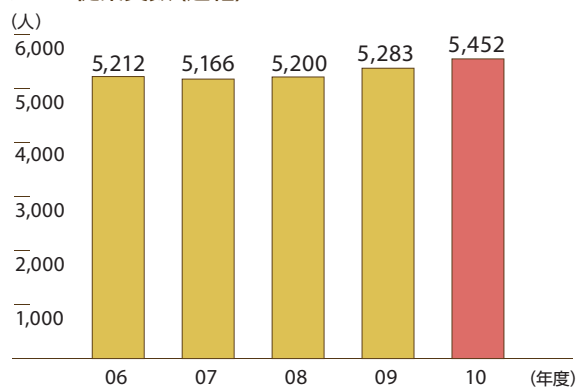
社名／株式会社日清製粉グループ本社
 所在地／東京都千代田区神田錦町一丁目25番地
 創業／1900年(明治33年)10月
 資本金／17,117百万円
 発行済株式の総数／251,535,448株

2011年3月31日現在

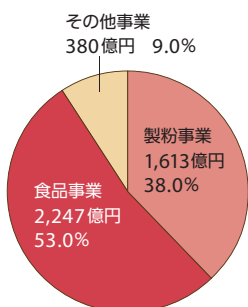
売上高(連結)・経常利益(連結)



グループ従業員数(連結)



セグメント別売上高(連結)



従業員の状況(連結) ※

	従業員数 (人)	
製粉事業	1,267	[64]
食品事業	3,156	[1,505]
その他事業	681	[198]
全社(共通)	348	[58]
合計	5,452	[1,825]

※従業員数は就業人員であり、臨時従業員は [] 内に年間の平均人員を外数で記載しています。

製粉事業

パン・麺・菓子メーカー様の商品づくりのコンセプトに合わせ、小麦の挽き方や配合を工夫し、数百種類の小麦粉を開発・提案しています。また、新しい食文化の創造や新業態開発にも挑戦し続けています。



その他事業

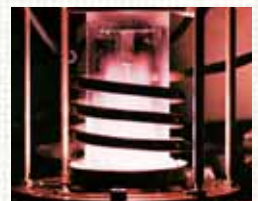


ペットフード事業

「ペットの元気と長生きのために」を企業理念とし、ペットの健康の基本である「食生活」の向上を目指し、安心かつ高品質なペットフードを研究・開発し、販売しています。

エンジニアリング事業

食品・医薬品・化成品などの製造設備から工場建設にいたるまでの広範囲な「エンジニアリング事業」のほか、世界レベルの高度な粉体加工技術を用い、「機器製作販売事業」「粉粒体加工事業」を展開しています。



プラズマによる超微粒子製造

メッシュクロス事業

最先端メッシュテクノロジーをベースに、スクリーン印刷用資材・産業用資材・化成品・防虫網など、あらゆる産業界へ製品を提供しています。



化成品一覧

食品事業



日清



ママー



De Cecco



日清
お菓子
百科



Naturart



青の洞窟

加工食品事業 パスタやパスタソースをはじめとするイタリアン商品、お好み焼粉、ケーキミックス、うどん等の乾麺などといった「常温食品」「冷凍食品」のほか、「畜肉加工品」を展開しています。



中食・惣菜事業

和のおかずやサラダといった惣菜を製造し、パック詰めにした商品を販売。主に量販店の惣菜売り場にて季節の味をお届けしています。



健康食品事業

栄養補助食品を中心に、医薬品原薬、医薬製剤の製造・販売をしています。特にコエンザイムQ10は、世界に先駆けて工業化に成功し、水溶性タイプの開発で高い評価を得ています。

酵母・バイオ事業



製パン・製菓業界向けにパン酵母、フィリング、マヨネーズといった多様な素材を提供しています。また、80年間にわたり培った培養技術を活かし、診断薬原料や医薬品の研究開発支援資材・サービスなどを提供しています。

製粉事業

- 日清製粉株式会社
 - フレッシュ・フード・サービス株式会社
 - ヤマジョウ商事株式会社
 - ロジャーズ・フーズ株式会社(カナダ)
 - 日清STC製粉株式会社(タイ)
 - NSTCトレーディング株式会社(タイ)
 - 石川株式会社
 - フォーリーブズ株式会社(シンガポール)

食品事業

加工食品事業

- 日清フーズ株式会社
 - マ・マーマカロニ株式会社
 - イニシオフーズ株式会社
 - 大山ハム株式会社
 - メダリオン・フーズ・インク(アメリカ)
 - フード・マスターズ株式会社(アメリカ)
 - タイ日清製粉株式会社(タイ)
 - タイ日清テクノミック株式会社(タイ)
 - 新日清製粉食品(青島)有限公司(中国)
 - 日清製粉東酵(上海)商貿有限公司(中国)

酵母・バイオ事業

- オリエンタル酵母工業株式会社
 - 株式会社パニーデリカ
 - 株式会社OYCフーズネット
 - 株式会社日本バイオリサーチセンター
 - 北山ラベス株式会社
 - 株式会社オリエンタルバイオサービス
 - 株式会社オリエンタルバイオサービス関東
 - 株式会社ケービーティーオリエンタル
 - OYC Americas, Inc.(アメリカ)
 - OYC EU B.V.(オランダ)
 - オリエンタルサービス株式会社

健康食品事業

- 日清ファルマ株式会社

その他事業

ペットフード事業

- 日清ペットフード株式会社

エンジニアリング事業

- 日清エンジニアリング株式会社

メッシュクロス事業

- 株式会社NBCメッシュテック
 - 株式会社NBCハイネット
 - CNK株式会社
 - 株式会社NBCメタルメッシュ
 - P.T.NBCインドネシア(インドネシア)
 - ダイナメッシュ・インク(アメリカ)
 - 恩美絲(上海)紗網貿易有限公司(中国)
 - THAINAK INDUSTRIES CO.,LTD.(タイ)

配合飼料事業

- 日清丸紅飼料株式会社

その他

- 日清サイロ株式会社
- 信和開発株式会社
- 阪神サイロ株式会社
- 日本ロジテム株式会社
- 千葉共同サイロ株式会社

持株会社

株式会社日清製粉グループ本社

- 日清アソシエイツ株式会社
- 錦築(煙台)食品研究開発有限公司(中国)

- … 連結子会社
- … 持分法適用会社
(2011年6月現在)

新製品・リニューアルのご紹介

マ・マー お弁当用ナポリタン 240g
日清フーズ(株)
冷凍食品



新製法でさらにおいしく。アレンジレシピもご提案しています。



コラーゲン+月桃葉
日清ファルマ(株)
栄養補助食品

美しさを根本から高めていくための新発想美容サプリ。通信販売でお求めいただけます。



いぬのしあわせ
プッチーヌ シリーズ
日清ペットフード(株)
ドッグフード

超小型犬の飼い主様が満足するフードづくりを目指しています。

Fight, Speed & — 新たな発想で新しい領域に積極的に

2011年4月、世代交代による経営の若返りを図りグループ全体の成長を加速するため、代表取締役社長として大枝宏之が就任しました。創業120周年となる2020年を見据え、当社グループがどのように発展していくのか、皆さまにお伝えします。



Change!

挑戦する—

株式会社日清製粉グループ本社
代表取締役
取締役社長

大枝宏之

小麦粉の安定供給を果たすために

はじめに、東日本大震災により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

当社グループの製粉事業は、国内小麦粉の約4割を販売し、国内市場においてトップシェアを獲得しております。小麦粉は米と並び主食であり、パン、ラーメン、うどん、スパゲティ、お菓子など幅広い用途で使用されており、日本人の食を支える大きな柱になっています。

当社グループは、国民の主要食糧である小麦粉の安定供給の確保に大きな責任を担っており、この度の震災においても、その責任の重さを実感しました。

当社グループは、以前より災害に備えて事業継続計画(BCP)を整備しており、地震の発生後、冷静かつ的確に対応することができました。当社グループの生産設備は大きな被害を受けることなく、迅速な対策本部の設置と被害への対応、供給体制の確立等において、当社のBCPは有効に機能しました。一方で、今回の災害では予想を超える事態も起きており、この経験を活かし、さらに実効性のあるBCPへと改善し、災害への備えを拡充していきます。

当社グループの製造工程で使用するエネルギーの約70%が電力です。今回の電力不足により実施された計画停電に対しては、事業場ごとに停電時の対応手順の明確化

や発電機の設置等の対策をいち早く実施しました。夏期の電力不足については、生産現場では生産シフトの変更、土・日・祝日、深夜を活用した生産などを実施、一方、本社などの事務部門では空調やエレベーターの省力運転、照明の消灯などを実施しました。その結果、15%の削減目標に対して、30%を超えて削減しました。

さらに、この震災に端を発した放射性物質への対策にも万全を期さなければならないと考えており、今後も安心・安全な食品を提供するという当社の社会的使命を果たしてまいります。

食卓で絆をつむぐ製品を通して 社会に貢献する

東日本大震災を通じて、改めて「食」とは何かを見直した方も多いのではないのでしょうか。震災後、家族や友人と家で料理し、一緒に食事をとる傾向がより強くなったようです。「食」は人とひととの絆を象徴するものでもあるのです。

そのような流れを踏まえて、現在、日清フーズ(株)では「とびきりの愛をつくろう。」キャンペーンを実施しています(キャンペーン応募締切2012年1月10日)。このキャンペーンは食卓を囲んで家族や友人との絆をさらに深めてもらいたいという思いを込めて企画したものです。

これからも、食卓で人とひとの絆をつむぐ製品を開発し、お客さまに提案してまいります。

競争がさらに激化する時代だからこそ お客さまとの信頼関係を大切に

日清製粉グループは、小麦粉に加えてパスタ、ミックス粉など加工食品において国内トップブランドを数多く持ち、販売力、技術力、安心・安全への取り組みでもお客さまから高い評価をいただいています。

私たちの事業にとって重要な原料である小麦をめぐる環境が、いま、大きく変わろうとしています。新興国での需要増加およびファンドマネーの流入等により、小麦を含めた穀物相場は上昇基調にあります。一方で、TPPやEPAなどの国際交渉の進展と決着次第では、原料小麦の関税の撤廃、海外からの輸入品との競争など、ボーダレスな世界市場で一層激しく戦わなくてはならないことが想定されます。

当社は以前より海外企業との競争激化も想定し、生産拠点の大規模化・臨海工場への集約等、コスト競争の強化を図るとともに、優れた開発力・技術力を駆使し、他社とは差別化された高付加価値製品を提供し、安心・安全の保証を徹底することで、お客さまとの信頼関係をさらにゆるぎないものとするよう努めています。

海外事業拡大の加速と 成長、拡大を目指す新中期経営計画

大きな変革の時代となるこれからは、グループの成長に向け、海外市場をさらに開拓していくことが必須です。

新規海外事業展開における主なターゲットは、人口が増加し、生活水準も向上しつつある中国を含む東南アジア市

場および成熟市場であり、引き続き成長が見込まれる北米です。当社は、今年創業111年を迎えますが、「信を万事の本と為す」および「時代への適合」を基本とし、十分な備えをした上で、必要なリスクを取って時代の大きな変化を乗り切ってまいります。

製粉事業においては、「世界一の製粉会社を目指す」をスローガンとしています。

常に安定した品質の製品をご提供すること、卓越した技術力・開発力によってお客さまのニーズに応える製品をつくること、安心・安全を高いレベルで実現すること、グローバル市場を勝ち抜くコスト競争力を持つことにより、規模ではなく、「お客さまの満足度世界一」を目指します。

海外事業も同じ考え方で推進しており、すでにカナダでは20年前から製粉会社を傘下とし、製造規模を5倍に成長させています。また、プレミックス事業では、中国やタイで生産量を増大させています。

オリエンタル酵母工業(株)は、国内トップシェアを有する製パン用イーストなどベーカリー向け原材料、診断薬原料、医薬品原体の製造販売を行っており、またインドにおけるバイオビジネスの拡大や中国での食品ビジネスの市場開拓を推進しています。また、(株)NBCメッシュテックは、スクリーン印刷用メッシュクロスで世界の約1/4のシェアを獲得しており、インドネシア工場の能力増強を行っています。今後の海外展開においてもグループのシナジーを徹底的に追求していきます。当社グループの培ってきた安定した高品質製品を作り出す生産技術、品質管理技術、優れた人材は世界でも十分に戦っていけるものと確信しています。

本年11月、当社は新中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」(NNI: New Nisshin Innovation)を策定することを発表しました。この計画では、当社創業120周年となる2020年を見据えた長期的な視点に立ち、グループ売上高1兆円の達成、海外売上高30%への伸長という数値目標を掲げました。

変化をしないことが最大のリスクであると認識し、新たな発想で新しい領域に積極的に挑戦していきます。また、時代の変化、当社を取り巻く状況の変化に的確に対応し、全ての判断、行動をスピーディーに行い、「成長、拡大」を目指します。

社員一人ひとりが志を高く持ち、 戦う集団を生み出す

日清製粉グループは食品メーカーですから、やはり原点は「ものづくり」です。指示を待って動くのではなく、現場で一人ひとりが考え、自ら工夫し、実行するのが基本です。自立した強い現場力は当社グループの強みであり、生命線ともいえます。これからはさらに国内でも海外でも高い目標に向けて、広く事業を展開していくことになります。自主自律の精神を持ち、感度に優れ、志の高い人材が求められます。

私が当社に入社する決め手となったのは、就職活動で会社訪問した折に、採用担当の社員の印象がとてもよかったことでした。丁寧に時間をかけ真摯に対応してくれたことが、いまも心に残っています。入社後は、人事部での勤務後、2年間海外に留学させてもらい、帰国してからは原料



小麦の調達や企画業務、国際関係の業務に長年携わってきました。その間いつも実感していたのは、社員を信頼し、若いころから仕事を任せて成長させていくという、人を大切にする社風です。

私は、この社風がとても大切だと思っています。社員が主要食糧の供給を担うことに誇りを持って仕事に取り組んできたから、創業以来の信用が着実に培われてきたと考えるからです。

事業環境の変化が激しい今だからこそ、グループの全事業会社、全社員が進むべき方向に常にベクトルを合わせ、アクセルとブレーキが効いた「戦う組織、戦う集団」として、一人ひとりが誇りを持ち、自信を持って仕事に取り組んでいく会社を目指してまいります。

東日本大震災における 日清製粉グループの対応に

東日本大震災により亡くなられた方々に
謹んで哀悼の意を表しますとともに、
被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災で、経済、環境面で大きな被害が出ています。

今、国を挙げて被災地の一日も早い復旧とインフラ整備に向けて対策が進められています。

日清製粉グループは被災地への支援、事業継続、電力不足への対応などに全力で取り組みました。

震災後の当社グループの状況について、ご報告いたします。

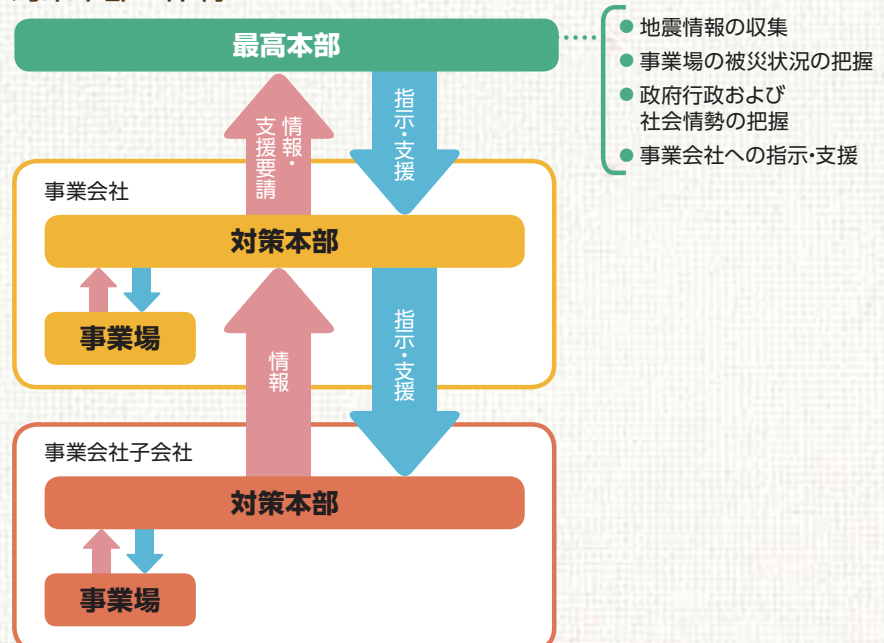
※掲載している情報は2011年9月末現在の内容です。

大規模地震を想定した危機管理体制による対応

最高本部の立ち上げ

「クライシスコントロール規程」および「大規模地震防災グループマニュアル」にもとづき、地震後の初動体制として、3月11日午後3時すぎにはグループ本社社長を本部長とする最高本部(東京)を立ち上げ、迅速に情報収集体制を構築。直ちに社員等の安否や被害状況の事実確認を行いました。また、事業継続計画(BCP)にもとづき、製品の供給責任を果たすべく、代替措置や復旧対応に努めました。

対策本部の体制



ついてのご報告

社員等の安否確認

3月11日中に出張者も含めてグループ社員全員の無事を確認、同日中に確認の取れなかった社員の家族についても14日には確認が取れ、社員・家族全員の無事を確認しました。

3月11日 (株)日清製粉グループ本社社長を本部長とする最高本部を設置し、社員全員の安否を確認。被災のあった工場、オフィスの復旧に向け全社を挙げて取り組むとともに社内外の関係者に支援要員の派遣を要請した。

3月14日 社員・家族全員の安否確認終了。グループ全体で節電、消灯励行の開始。東京電力が、計画停電を開始。一部工場で製造に影響が出始める。

3月16日 日清フーズ製品を始めとしてグループ各社の製品を救援物資として提供開始。

3月17日 函館工場を除く、関東地区の工場が通常操業を開始。

3月21日 函館工場が運転を再開。

被災地への緊急支援

支援物資の提供

農林水産省より緊急支援要請があったことを受け、以下の商品を被災地に提供しました。

- ・日清フーズ(株) レトルト食品
- ・大山ハム(株) ハム製品
- ・オリエンタル酵母工業(株) レトルト食品

また、日清ファルマ(株)が栄養補助食品、日清ペットフード(株)がペットフードを被災地に提供しました。

義援金と募金活動

被災地での救援活動や復興に役立てていただく義援金として、日清製粉グループとして1億円を寄贈しました。また、当社グループ社員に災害募金を呼びかけ、(社福)中央共同募金会(赤い羽根共同募金)に寄付しました。

パルテノペ各店舗での店頭募金

フレッシュ・フード・サービス(株)が運営するパルテノペ各店舗の店頭では、東日本大震災に対する募金を実施。お客様からお寄せいただいた義援金は(財)日本ユニセフ協会を通じて寄付しました。



消費者の皆様への対応

お客様相談室には製品の不足、冷凍食品の品温変化、放射性物質による汚染の不安などの相談が寄せられました。窓口ではお一人おひとりの気持ちに寄り添った対応に努めました。

※詳細はp13-16「ステーキホルダーとの対話」もご覧ください。

お客様のお得意様の安否・被災状況の確認

食品プラント事業を行う日清エンジニアリング(株)では、被災エリアのお客様に対する状況確認や情報提供を地震発生当日から開始しました。現地調査、応急処置、修理や復旧立案を順次行いました。

事業継続

被害の状況

- 日清製粉(株)函館工場
津波の影響により冠水したため、一時的に操業を停止
- 日清製粉(株)鶴見工場・千葉工場、
日清フーズ(株)館林工場、
マ・マーマカロニ(株)宇都宮工場
比較的軽微な被害
- 仙台営業オフィス 建物の一部が損壊
- 仙台市内の物流拠点 浸水や損壊の被害

生産設備

日清製粉(株)函館工場が津波の影響により冠水したため、震災後、操業を停止していましたが、3月21日に復旧し運転を再開しています。それ以外の工場については、一部工場で地震発生時に軽微な損傷があり、一時的に操業を停止しましたが、すぐに生産を再開しました。なお、出荷については、震災発生後も支障なく行っています。

日清フーズ(株)館林工場およびマ・マーマカロニ(株)宇都宮工場は設置機器の一部が地震でずれたり、ユーティリティ設備などの一部に破損などが発生しましたが、主要な生産設備に大きな被害はありませんでした。全設備の点検および手直し工事を行い、震災発生から1週間以内に全ラインを稼働しました。

仙台市内の営業事務所・物流拠点について

仙台市内の営業事務所は、地震の影響により建物の一部に損害がありましたが、通常の営業体制になっています。また同市内の物流拠点においても、浸水や損壊の被害を受けましたが、輸送ルートの変更などにより、製品供給体制は被災前の水準に回復しています。

計画停電への対応

計画停電の対象となっている多くの事業場では、社内ネットワークシステムや制御システムのバックアップ、照明確保のため非常用発電機を用意し、また、一部のラインは運転を継続できるように発電機を設置しています。計画停電があっても安定した製品供給を継続できるように、早い段階から対応策、生産計画を決定しました。

また、計画停電の最新情報を入手し、対象事業場に即時提供することで、効率的な生産を支援しました。

被災地の復旧に向けて

災害活動支援として高性能マスクを提供

(株)NBCメッシュテックは、東日本大震災の被災地で活動する消防署員に活用していただくため、東京消防庁日野消防署に災害活動支援物品を提供しました(4月25日)。

- ・ Cufitec®高性能マスク 9,000枚
- ・ Cufitec®拭き取りシート(1個240シート入り) 100個



Cufitec®は新型インフルエンザや鳥インフルエンザなど、ウイルスや細菌を不活性化する効果が確認されています。

「にっぽんお好み焼き協会」が宮城県で被災者支援を実施

日清製粉(株)社長が副会長を務める「にっぽんお好み焼き協会」が、5月17,18日に宮城県石巻市渡波駅前と、柴田郡の自衛隊船岡駐屯地で、関西風お好み焼を2日間で1,300食提供しました。

電力不足への対応

当社グループでは、夏場の電力不足への対策として、東京電力・東北電力管内の大口・小口全事業場で15%ピークカットを実施しました。また、関西地区においても、関西電力からの要請を受け、同様に15%ピークカットに協力しました。

生産部門での取り組み

土・日・祝日や深夜時間帯の活用、自家発電の使用による電力ピークカット対策を実施しました。

- 工程の一部停止によるピークカット(昼間帯)
- 土・日・祝日、深夜を活用した生産
- 空調使用制限と設定温度アップ
- 照明の省エネ点灯
- 自家発電による購入電力ピークカット
- デマンド監視による最大使用電力抑制

電力デマンド監視のために大型モニタを設置した日清製粉鶴見工場。使用電力が増加し予測結果が目標デマンド値を超えると、警報が出力されます。



全社での取り組み

例年6月1日から行っているクールビズ(軽装による通勤、執務)を5月16日から前倒しで行いました。また、空調や照明の見直し、エレベーター稼働台数の削減などの節電対策を実施しました。

- 空調の省エネ運転
- 昼間帯の空調熱源停止
- 必要性が低い照明の消灯と、執務エリアの省エネ点灯
- エレベーターの省エネ運転
- ジェットタオルなどの停止
- PC、コピー機の省電力設定



左/事務所内の通路の照明を消灯した(株)NBCメッシュテック西部支店の様子。右/当社グループ広告キャラクター コニヤラを用いた節電を呼びかけ。

家庭での節電のための情報提供

ウェブサイトでは、毎日の料理のなかで、電力などのエネルギー使用をできるだけ抑えて調理ができるレシピ情報を提供しています。

- 「おいしい!しかも簡単!節電・省エネなほどレシピ」
<http://www.nisshin.com/entertainment/recipe/setsuden/>



2010年度の特集「万が一の災害発生に備える」もウェブサイトでご紹介しています。

<http://www.nisshin.com/csr/special/10/supply>

責任ある消費行動のための

消費者の権利の確立と暮らしを守る活動を展開している「全国消費者団体連絡会」*（消団連）事務局長の阿南久氏をお迎えし、大震災後の消費生活と社会の在り方について、ご意見をいただき、CR（Consumer Relations）室と意見交換を行いました。



全国消費者団体連絡会
事務局長 阿南 久氏



(株)日清製粉グループ本社
CR室長 南澤陽一



(株)日清製粉グループ本社
CR室主幹 相澤和子

——未曾有の大震災と原子力発電所の事故。この緊急事態を切り抜け、社会を復旧・復興していくために、安心・安全を担保する新たな消費の仕組みや制度の構築が求められています。消費者と企業が情報を共有して新しい関係性を紡いでいくことが、問題解決の重要な鍵となりそうです。

未曾有の大災害に直面し、改めて感じた情報発信の大切さ

南澤 2011年3月11日の東日本大震災、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故が起き、大変な状況が続いていますが、震災後、消費者団体はどのような対応をされたのでしょうか。

阿南 まずは全国消費者団体連絡会に参加している46の

消費者団体が連携することから始めました。当初は被災地との連絡がつかせんでしたが、時間の経過とともに情報が届くようになりました。岩手県消団連からは「灯油がなくて寒いし、支援に行こうにもガソリンがないから、緊急の要請活動をしてほしい」と要望があったので、すぐに経済産業省に伝えました。福島県の消費者ネットワークからは、原発事故に伴う苦勞をつづった手紙が届きましたので、それを会員組織に発信しました。

相澤 今回の震災は被災地が広く、各地それぞれの状況を把握するのが大変でしたね。

阿南 その後、あちこちのスーパーマーケットやコンビニエンスストアで食料や生活物資が不足する事態にもなりましたので、供給調査を行い、どこで何が足りないかという情報も発信しました。水や飲料のメーカーに問い合わせた

企業と消費者のエンパワメント

ところ、沿岸地域の工場が被災して包材が不足していたり、停電で牛乳やヨーグルトがつかれない工場があったりすると聞き、消費者がタイムリーに状況を知り、買い占めに走らないことがとても大事だと実感しました。

相澤 消団連は、いち早くホームページを立ち上げ、まさしく連絡会としての役割を発揮されていたりしました。「買い占めせずに分け合おう」というメッセージもすぐに発信されていて、その機動力に感心しました。

阿南 ありがとうございます。私たちも必死でした。普段は全国的に共通する消費者課題に向けて活動していますが、今回のような場合は、それぞれができることを素早くやろうという体制でした。メーカーさんも供給者責任を果たすために、ものすごい努力をされていましたね。

南澤 震災後の物不足の時期、当社グループもフル操業で供給に努めましたが、それでも私どもの製品がスーパーやコンビニに全くないという状況がしばらく続きました。

阿南 本当に大変でしたね。おそらく、うどんやスパゲティなどの小麦粉製品を保存食として買われたのでしょうか。

南澤 被災地への緊急支援物資の提供も行いましたが、当社グループの場合、主要な製品は小麦粉、パスタ、乾麺など調理が必要なものがほとんどなので、すぐに食べられるものとして、レトルト食品などをお送りしました。

相澤 お客様相談室には、震災後はお問い合わせが増えました。最初はやはり生活物資の不足にかかわるものでした。「強力粉がないので、薄力粉でもパンはつくれますか」などです。その後、「冷凍食品が計画停電で溶けた可能性があるけれども、どうしたらいいか」などのご相談が増えました。「冷凍庫は停電になっても3～4時間程度であれば、開閉しなければ冷凍食品の品質は保持できるということ、計画停電時には凍結した保冷材を入れると効果があること、溶けかかっている製品の再凍結は避けること」をお伝えしました。

阿南 私たちは夏の節電対策として、冷凍庫や冷蔵庫の温度を1ランク高温設定に変えることは、食中毒のリスクが高まり、とても危険なことだと思ったものですから、食中毒菌を増やさないようにきちんと管理する方法についての情報を出し、学習会も開きました。こういった適切な情報

がないと、消費者は適切な行動がとれないですね。

安全を確保する第一歩は、現状を知ること

相澤 その後は、放射性物質汚染にかかわるお問い合わせが増え、9月現在でも受付件数の半分程度を占めています。製造日、原料の生産地や工場の所在地など、とても気にされています。お一人おひとりのお気持ちに寄り添った対応を心掛けて、次も納得してご購入いただけるように、努めています。

阿南 放射性物質の問題は深刻です。政府も基準値の設定などさまざまな対策をしていますが、ベクレルやシーベルトなどの耳慣れない情報に混乱し、理解しきれませんでした。そこで私たちはまず現状を正しく知るための勉強会「放射性物質汚染と私たちの暮らし」を5月に開きました。ここでは、放射性物質の種類とそれぞれの影響、外部被ばくと内部被ばくの違いなど、専門家の先生に教えていただきました。勉強会は連続して開催しており、これからも引き続き、再生可能エネルギーや、米の放射性物質汚染などのテーマで開催する予定です。

相澤 放射性物質の人体への影響を心配される方は多く、特にお子様をお持ちのお母様のご不安はとてもお強いと思います。勉強会を通じて、放射性物質はむやみに恐れるのではなく、正しく恐れることを学ぶことは重要だと思います。参加された方は消団連の取り組みを心強く感じられたのではないのでしょうか。

座談会について

日時 8月12日(金)

会場 (株)日清製粉グループ本社 神田錦町ビル

※「消費者の権利の確立と暮らしを守り向上をめざすため、全国の消費者組織の協力と連絡をはかり、消費者運動を促進すること」を目的に1956年12月に結成されました。

阿南 暫定規制値を上回るものは市場に出てこない体制ができれば、どこの生産地のものも安心して食べられるようになります。むしろ今、重要なのは、東北地方の農業がつぶれないように支援することです。正確な情報を得て、適切な選択に活かしていくことだと思います。

南澤 日本で流通している小麦のうち、国内産小麦の占める割合は約10%です。国内産小麦は、一般的に秋に種をまく冬小麦で6月を中心に収穫されます。現在、収穫された小麦の放射性物質の調査が各県により実施・公表されています。この調査結果をもとに、小麦粉や副産物であるふすまの安全が確保される小麦のみが流通するシステムが構築されています。

阿南 国産小麦は、国内自給率の向上の視点からも消費者から期待されている作物のひとつですが、ちゃんと汚染濃度を測定されていることはあまり知られていませんね。

南澤 測定値はすべて、各県と厚生労働省のウェブサイトで公開されています。

阿南 そうでしたか。ちなみに御社の国産小麦粉のパッケージには産地表示はしていますか。

南澤 小麦粉は品質を一定に保つために、原料小麦の品質に応じて、原料原産地の切り替え、調整をその都度行っておりますが、消費者の皆様の要望にお応えするため、製品に記載されている賞味期限表示でお問い合わせいただければ、原産地をお答えできるようにしています。

阿南 放射性物質汚染について「そもそも政府が定めた基準値は妥当なのか」「汚染濃度の高いものを低いものに混ぜているのではないかと懸念する声もあると思いますが。

南澤 汚染の可能性が予測される地域では、農林水産省の指導のもと、小麦の放射性物質の調査が実施されました。製粉業界は、小麦の加工のもっとも川上に位置しており、

我々が安全を確保しないと、製パン、製菓、製麺業界、そして最終的には消費者の皆様にご迷惑をおかけしてしまいます。私どもは、市場に流通する小麦粉製品の安全を確保するため、最大限の努力をしております。

相澤 詳しいお問い合わせについては、お預かりさせていただいて、お答えすることとしています。また、私たちのホームページでも一部の商品について原料原産地情報を開示しております。

阿南 消費者には、そういう努力や仕組みが十分に伝わってなくて、疑心暗鬼になることが多いです。現在最大の課題は、これほど壊滅状態にある東北の農業を復旧し、支えていくことです。放射線物質の問題にしても企業の供給責任にしても、農家の方々が自立できるような解決策を模索すべきです。その方向性を共有することが不可欠ですね。

相澤 放射性物質のお問い合わせに本当に大事なのは、私たちの姿勢や取り組みをていねいに説明して、信頼していただくことだと思っております。今、阿南さんとお話ししてもこれだけの時間がかかる問題ですので、1件、1件時間をかけながらお答えするとともに、社内では、常に関係部署とよく連携し、安心・安全を裏付ける情報共有を行っております。

南澤 放射性物質の情報に戸惑ったのは消費者の皆様だけでなく、私たちメーカーも同じです。原発事故の直後は必死に情報を収集しながら取るべき道を模索しました。不信や誤解が広まることのないように、消費者の皆様とメーカーが互いに理解し、協力しながらよりよい道を開いていきたいと思っています。

阿南 私たちも、メーカーさんが何をしようとしているのかきちんと把握できれば、意見を言ったり、協力したりできます。理解し合うことが本当に大切ですね。

消費者の選択する権利とエンパワメント

南澤 当社は2009年にCR室を経営直轄の組織として設置し、消費者の意識や社会の潮流を的確に見極めるとともに、事業部門を横断する消費者情報の共有と、対応の一元化に努めています。2010年秋に発行された社会的責任に関する国際規格、ISO26000でも「消費者課題」は、中核主題のひとつとして位置付けられています。

阿南 消費者基本法にもとづいて消費者庁をつくるにあたって、「消費者の権利」を守ることと同時に、消費者の自立支援も課題とされています。消費者自らが積極的に情報を収集し、合理的に行動し、健全な市民社会をつくつ



ていく。それが社会の構成員である消費者の責任です。それをサポートするのが消費者団体の役割だと私は考えています。

南澤 企業はよりよい製品で市場をつくり、よりよいものを選ぶための情報も提供する。その信頼性が、消費者の選択の一番のポイントになるわけですね。

阿南 かつては、不良品のマッチの不買運動など企業に対して公正な取引を要求したり、安全で良質な製品をつくるよう求めたり、激しく対決する運動をすすめてきた時代があります。今は、そのような追求型ではなく、本当に消費者が使うべき製品や暮らしに役立つ製品について消費者団体が企画提案し、企業を育てていくという段階です。

さらに今回の放射性物質汚染のように、消費者も勉強しなければ行動できないという事態になってくると、消費者自身が真にエンパワメントして成長することが求められますし、企業はそれにフィットした情報を出すことが求められます。

南澤 消費者とメーカーが対立するのではなく、科学的な根拠をもとに互いに納得できる情報開示のルールを決めていくことも大事なのではないかと思います。たとえば、オーストラリアとニュージーランドでは、食品表示の優先度の順位付けを行っています。優先事項は健康に直接的に影響する食品安全、二番目が予防的な健康に関する事項、その次が新技術、最後が消費者の皆様からの要望というようにランク付けができています。

阿南 日本の食品表示は、多岐にわたる法律にもとづいた制度になっていて、消費者にもメーカーにもわかりづらくなっています。だから一元化して、わかりやすく効率的に機能する制度に直そうという発想で議論が始まっています。だからこそ、いま一度、「消費者の選択する権利」といった基本を再確認し、原点に戻って組み立てる必要があると私は考えています。

南澤 消費者の安全に関するリスクの大きさに準じた順位付けを明確に共有すれば、消費者の皆様もメーカーも納得できる結果になると思います。

信頼関係を築く、好循環とは

相澤 ISO26000の消費者課題のなかでも、とりわけ持続可能な社会をつくっていくための消費をどうやって実現していくかが重要だと考えます。将来の暮らしに役立つ製品ということでは、環境問題と消費者課題を融合した早ゆでタイプのスパゲティがあります。1986年に発売した「プロント」をさらに進化させた「スーパープロント」という



断面の形状が風ぐるま型なので、ゆで時間3分の短時間調理が可能。調理の早さとアルデンテ感のおいしさを兼ね備えた進化した早ゆでスパゲティです。

早ゆでスパゲティも、消費者の皆様により広く知っていただきたい存在です。「麺に3ヵ所切り込みを入れることで、同じ太さの従来商品はゆであがりに7分かかるところを3分に短縮でき、早さとアルデンテ感のおいしさを兼ねている」のが特長ですが、実は、調理の際に排出されるCO₂が削減されるという環境配慮型製品でもあります。小さいことも積み重ねると大きな変化になります。

阿南 すごいものを考えましたね。画期的な商品ですが、どうやって宣伝しているのですか。

相澤 雑誌などで紹介するだけではなく、店頭にも置けるよう、こちらの製品を使ったメニューを掲載した、リーフレットを作成しています。

阿南 料理教室などを各地でやってもいいですね。持続可能性に貢献できる食材ガイドブックのようなものもあるといいなあと常々思っています。そして、このようなくらしに役立つ商品を発掘したり育てたりするための情報の提供も、これから消費者団体としてもやっていきたいです。

相澤 私たちは、消費者団体の皆様との対話を軸とした工場での意見交換会を積極的に行っています。小麦から小麦粉になるまでの製造プロセスを実際に見て、知っていただき、日ごろ気にされていることについてのご質問にもお答えしています。

南澤 実際にパンや麺の試食を行って小麦の銘柄ごとの品質の違いを実感していただきながら、意見交換を行っています。

阿南 消費者のなかにも、先入観にとらわれずに自ら情報を求めて学習する人たちがけっこう出てきています。私も、このようにしてメーカーの方々とお話ししながら勉強したことは、できるだけ広くお伝えするよう心掛けています。

相澤 お互いの距離を縮めて、いつでも話し合えるような信頼関係を築くことが本当に大切だと、改めて感じます。

南澤 本日はお忙しいところをありがとうございました。

 2010年度の対談「消費者志向経営の羅針盤、CR室」もウェブサイトでご紹介しています。
<http://www.nisshin.com/csr/dialogue/10/reliability>

「健康と信頼をお届けする」

お客様との一言ひとこと。社員同士で交わす何気ない会話。

私たち日清製粉グループが大切にしたいものについて、社員自らがつづったエピソードを通じてご紹介いたします。

お客様に愛され続けるために

あるとき、お客様相談室に
がっかりした声で電話がありました。

お子様がパッケージの説明を見ながら
一所懸命プリンをつくったのに
何時間冷蔵庫に入れても固まらない。

「初めてでも簡単につくると書いてあったのに…」

品質管理部門が原因を調べたところ、
加熱が不足していたため、成分が溶けきらず、
固まらなかったことがわかりました。

お客様への対応を終えた相談員が
私に訴えてきました。

「お子さんは一所懸命、
つくり方を読みながらプリンをつくったに違いない。
うまくできず、本当に落胆したことだろう。
つくり方の表示がわかりにくかったのではないか。
なんとかするべきです！」

私は同じような声をまとめて
社内の品質改善会議に提案しました。
どのくらいまで加熱をしたらよいのか
お子さんによりわかりやすい表示にするためです。

会議に出席していたメンバーたちは
お客様や私たちの気持ちに共感し、
すぐに検討することを約束してくれました。

「なんて、すてきな会社だろう」

その後、表示の変更が決定したことを
相談員に伝えると
「このお客様が今度プリンを購入してくれたら、
表示が変わったことを喜んでくれますよね」
と、とても感激してくれました。

お客様相談室の仕事をしていると
意気消沈することもあります。

でも、当社グループの製品が
お客様に愛され続けるために、
大切な役割だとやりがいを感じています。

(40代 女性)

まさかのときに心の支えになる

東日本大震災から5ヵ月がたったころ、
お客様から
ていねいな文字で書かれたハガキが届きました。

震災により住まいを失ってしまったけれど、
ようやく仮設住宅が決まったので、
また御社の情報誌を送ってほしい
と書かれていました。

わざわざ住所を知らせてくださっただけでも
ありがたいのに、
そこにはさらにこんなことも書かれていました。

「御社の栄養補助食品は1包1包が無事でした。
避難所では元気の素を飲み続けました」

大変な震災のなかで、当社の製品を『元気の素』と
おっしゃってもらえたことを本当に誇らしく思いました。

「こういうことのために、
この製品はあるんじゃないだろうか」

お客様のお体だけではなく、
まさかの時に寄り添い、その心の支えになる。

これからもその思いを胸に
つくり続けていきたいと思えます。

(30代 女性)

ストーリー



「健康と信頼をお届けする」ストーリーは
ウェブサイトでも紹介予定です。
<http://www.nisshin.com/csr/>

とりあえず、「日清」なら

3月11日の震災時、私は神田の本社にいました。テレビ画面に映る火事や、すべてをのみ込む津波を見ても、災害が起きたということがあまり信じられませんでした。

その日は会社で仮眠を取り、翌朝帰宅してまた眠りました。

目が覚めたとき、お腹が減っていたにもかかわらず家には食べるものがありませんでした。

何か買って食べようと思ってでかけた家の周りのコンビニやスーパーからは、パンなどが姿を消していました。

これが地震か、これが災害かと初めて思いました。

震災後しばらくして、店頭にもモノが戻ってきたある日のことです。

放射性物質の問題などが人々の気持ちに不安の影を落としているころでした。

スーパーで買い物をしていると、若い夫婦らしき二人連れが「日清フラワー」を手に取りながら話しているのが聞こえてきました。

「とりあえず『日清』なら安心だよね」

ふだんは本社で働いているため、お客様の顔を直接見ることはできません。

このとき、あらためてお客様に安心を提供することの重みを実感しました。

(20代 男性)

働く人の後ろに

入社4年目で、工場勤務をしているときのことです。

ある女性が
作業中、指先にけがをしまいました。

幸いけがは軽かったのですが、同じ事故を起こさないようすぐに今後の改善に向けて話し合いをしました。

会議中、現場を管理する担当者が突然、涙を流し始めました。

「大事なお母さんを預かっているながら、けがをさせてしまい、ご家族に大変申し訳ない」

けがをした女性のお子さんに対して、申し訳なさがこみ上げてきたのです。

社員だけでなく、その家族のことも思いやる姿に、働く一人ひとりに家族があることを教えられました。

(30代 男性)

なぜ、うちの会社に入ったの？

とある新入社員と話していたときのことです。

「何でうちに入ったの？」と聞いたところ、「実は迷っていたんです」と彼は言いました。

「でも…
大切な人に食べさせたいかどうか。
それが決め手でした」

私たちは単なる食品をつくっているのではない。大切な人たちの食と健康を支えているのだとあらためて気付かされる言葉でした。

(40代 男性)

地球環境とのかかわり

企業活動によって生ずる環境への影響は地球環境全体にも影響すること、地球環境保全は企業の存続と活動の必須要件であることを認識し、「日清製粉グループ環境基本方針」にもとづき、自主的・積極的に廃棄物やCO₂を削減するとともに、資源やエネルギーの有効活用を図る等の環境保全活動を推進します。

日清製粉グループ環境基本方針

[理念]

地球環境保全は、人類の生存と発展のための社会全体の課題であり、その社会の一員として事業を営む企業にとって、最重要の経営課題です。

日清製粉グループは「信を万事の本と為す」と「時代への適合」を経営の基本理念とし、「健康で豊かな生活づくりに貢献する」を使命として、当社が地球社会の一員であることの認識を深く持ち、地球的規模での環境保全を図りながら自由に活力ある企業活動を目指します。

企業人として、家庭人として、地球の一員として、私たちにできることを「ひとつ」

▶ <http://www.nisshin.com/csr/environment/>

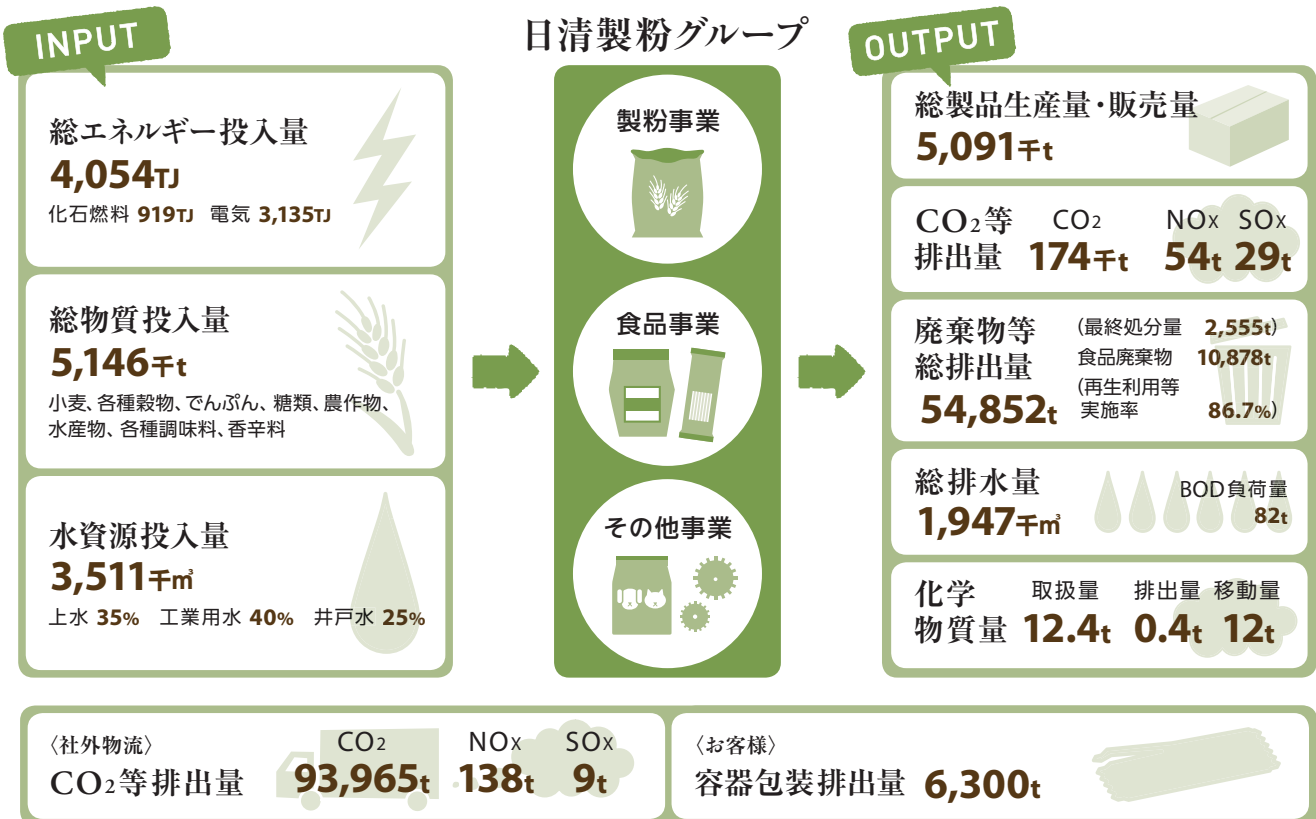
[行動指針]

- すべての段階において環境に十分配慮
- 環境関連法規制及び企業行動規範を遵守
- 環境負荷の低減及び大気・水質・土壌汚染の予防
- 環境保全に関する情報提供と教育
- 十分な情報公開
- 地域の環境保全活動に積極的に参画
- 海外事業においては現地の環境保全に十分配慮
- 環境目標の設定と定期的見直しによる継続的改善

マテリアルバランス

日清製粉グループの事業活動には、さまざまな工程や段階がありますが、主な環境影響として、製造における電力を中心としたエネルギーの使用や水の利用、CO₂や廃棄物などの排出が挙げられます。原料や資源の投入から製造

や物流、さらにお客様が製品を消費して廃棄するまでの環境影響を把握し、適正な管理に努めることにより、私たちの事業や製品からの環境負荷をなるべく少なくできるようにグループ全体で取り組んでいます。



データの対象期間と算定について 2010年4月～2011年3月を対象期間とし、「環境報告ガイドライン2007年版」にもとづき、算定・開示しています。



詳しくはウェブサイトをご覧ください。
http://www.nisshin.com/csr/green

環境マネジメント

環境担当取締役のもと、グループ環境基本方針にしたがって、環境に配慮した経営を推進しています。独自の厳しい基準にもとづいたグループ環境監査により、環境に関連した法令遵守や目標の達成状況などを確認しています。また、工場・研究所・営業部署などのオフィスも含めて、ISO14001 統合認証を取得し、外部審査や内部審査などの評価を通じて、環境マネジメントシステム(EMS)の運用状況を確認しながら、継続的な改善を行っています。

ISO14001 統合認証対象範囲

(株)日清製粉グループ本社/日清製粉(株)/日清フーズ(株)/日清ペットフード(株)/日清ファルマ(株)/日清エンジニアリング(株)/日清アソシエイツ(株)/日清サイロ(株)/阪神サイロ(株)/マ・マーマカロニ(株)/大山ハム(株)の国内の生産工場/サイロ/研究所/本社オフィスおよび地区オフィスの営業部などの各部署

グループ環境監査実績

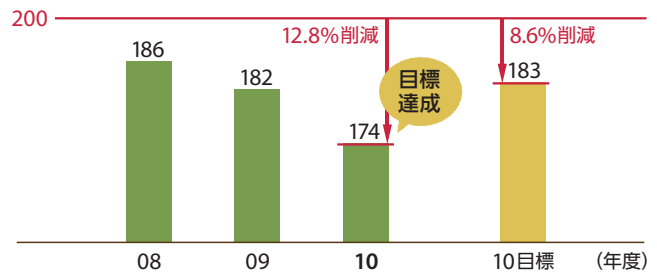
	実施事業会社数	実施事業場数	監査結果	
			改善命令	改善勧告
08年度	13	31	15	10
09年度	11	27	6	2
10年度	10	30	4	6

地球温暖化防止

省エネルギー設備への更新や作業方法の見直しなどに取り組んだ結果、グループ全体のCO₂排出量は174,060トンとなり、前年度より4.5%の削減となりました。これは、1990年度(基準年度)から12.8%削減されたこととなります。工場では重油ボイラーのガス燃料化や省エネルギー設備について、倉庫やオフィスではLED照明について、導入が進みました。グループ全体の生産量は増加していますが、全体的には低減する傾向となりました。

グループのCO₂排出量(輸配送は除く)(千t-CO₂/年)

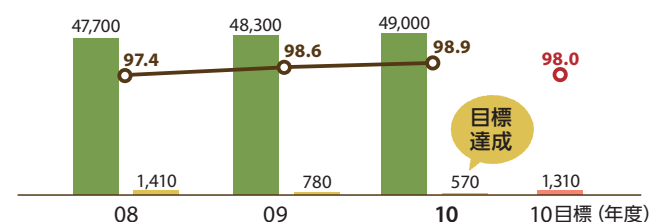
—1990年度実績(基準年)



廃棄物削減と資源循環

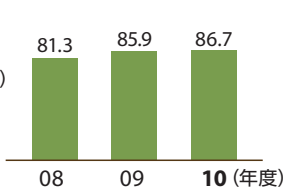
廃棄物等総排出量は、生産量の増加にとまない49,000トンと前年度に比べて増加しましたが、最終処分量については、1990年度(基準年度)の水準から約98.9%の削減を達成しました。グループ全体で生産効率の向上や手順の見直しに取り組み、また、営業部門での需給や在庫管理の強化などによって、排出物の発生の抑制に積極的に取り組みました。あわせて、肥料や飼料原料などとしての利用の促進に努めました。

廃棄物等総排出量

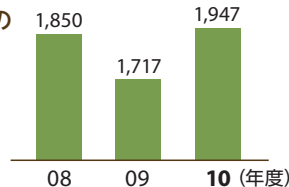


※最終処分量削減率=(1-当該年度最終処分量/1990年度最終処分量)×100(%)
※海外子会社、イニシオフーズ(株)は除く。 ※中食・総菜事業を行うイニシオフーズ(株)では、食品リサイクル法の対応に注力し、植物性残さの再利用等実施率を2006年度20%超から、2010年度80%を目指します。

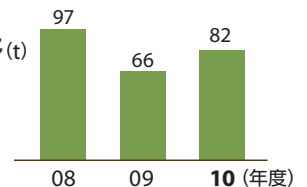
食品廃棄物の再生利用等実施率の推移(%)



総排水量の推移(千㎡)



年間BOD負荷量の推移(t)





ふるや ゆきこ
古谷由紀子氏

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント協会 (NACS)
理事 消費生活研究所担当

中央大学法学部卒業後、法律事務所勤務等を経て、消費者の視点の経営、コンプライアンス、CSRを中心に活動。2004年より現職。またISO / SR国内対応委員、「社会的責任に関する円卓会議」運営委員を務める。

持続可能な発展を目指す「協働」について

「ステークホルダーとの対話」におけるCR室と全国消団連事務局長との対話には、持続可能な発展を目指す貴社のさまざまな「協働」の取り組みへの意欲と実践が見受けられます。放射性物質汚染にかかわる行政との協働、消費者・消費者団体との協力・意見交換による健全な市場づくり、互いが納得できる情報開示や表示のルールづくりの提案など、ステークホルダーとの対話が多く協働の可能性を発見するプロセスとなっています。今後それらを具体化していくための「協働」を期待します。

東日本大震災への対応について

事前に準備されていた事業継続(BCP)が有効に機能し、社員の安否や被害状況の確認に加え、製品の供給という本業を、行政・NGOと連携して行われたこと、さらには放射性物質による食品汚染への不安にも的確に対応されていることが評価できると思われます。今後も節電対応や放射性物質による食品汚染の問題は続くものと思われます。消費者が食卓で絆を紡ぐという基本の生活ができるように尽力されることを期待します。

ISO26000への対応について

本レポートは、2010年に発行されたISO26000(社会的責任に関する手引き)をガイドラインとして取り入れており、貴社の社会的責任の実践のあらわれであると評価できます。

課題は、同規格に盛り込まれている7つの原則や7つの中核主題との関係で、貴社は社会的責任をどう認識し、どのような課題に、どのように取り組むかを期待して見ていきたいと思えます。これらを明らかにすることで、貴社の社会的責任の取組みの信頼性がより高まってくるものと思えます。



きしもと さちこ
岸本幸子氏

特定非営利活動法人
パブリックリソースセンター事務局長

東京大学教養学部卒業後、米国でニュースクール・フォー・ソーシャル・リサーチの大学院に入学。ノンプロフィットマネジメント修士課程修了後、米国のNPOの現場で資金調達と助成事業の実施に携わった。2000年、パブリックリソースセンターの創設に参画し現職。非営利マネジメント、寄付・融資システム等の非営利活動を支える資金基盤の開発、SRI(社会的責任投資)、企業の社会的責任等をテーマに活動中。

食品メーカーとしての食の安心・安全について

東日本大震災と原子力発電所事故の発生など、食品メーカーとして食の安心・安全をめぐる大きな試験のときを迎えています。同グループのCSRレポートは社長メッセージ、東日本大震災時における事業継続の取り組み、消費者団体との対話の報告を柱に絞り込んだ構成となっています。これらの組み立てから、食卓で絆をつむぐ製品をつくり社会に貢献するという、同グループのCSRの基本的な姿勢は理解できますし、消費者団体と対話する姿勢は高く評価できます。

ステークホルダーとのコミュニケーションを図る

同レポートは社員向けの啓発材料として有効であるといえますが、外部のステークホルダーとのコミュニケーションを図るためのレポートとしては、この冊子だけでは、消費者との関係、雇用・労働・安全、社会貢献活動等に関する取り組みの進捗情報が極めて限られているようです。ウェブ上だけでなく、冊子にも記載することを、あらためて検討し直してみたいはいかがでしょうか。

今後は同社として達成すべきであると考えて、核となる社会的責任が何で、どういう取り組みをして、何が次のチャレンジ(課題)であるかをはっきりさせ、情報開示することを期待します。特に本年の消費者団体との対話のなかで指摘のあった課題、例えば持続可能な消費に向けた取り組み(環境配慮型商品の開発、情報提供、消費者教育等)や消費者の選択の権利を担保するための製品の情報開示ルールなどについて、今後とも進捗を報告していくことを強く期待します。

環境に関する取り組みについて

データの開示も含め、昨年よりわかりやすい報告となった点はよかったですと思います。しかしながらCO2排出量や廃棄物の最終処分量について、2010年度に向けた中期目標を前年度に達成しているため、今後は、生産量の増加は大前提としつつ、さらに高いレベルの中期目標の設定に期待します。

コミュニケーションツールのご紹介

ウェブサイト「CSRの窓」



ウェブサイト「CSRの窓」では、本冊子では紹介しきれない詳細な取り組みを紹介しています。

<http://www.nisshin.com/csr/>

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 社長メッセージ ● CSRのあゆみ ● ステークホルダーとの対話 ● 特集 ● 経営体制 <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンス ・社会的責任への基本姿勢とマネジメント ● 社会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・お客様とともに ・お取引先とともに | <ul style="list-style-type: none"> ・株主・投資家の皆様とともに ・社員とともに ・社会とのかかわり ● 環境保全 <ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメント ・マテリアルバランス ・地球温暖化防止 ・廃棄物削減と資源循環 ・環境に配慮した製品・サービス ● 第三者意見 | <ul style="list-style-type: none"> ● 理念・方針 <ul style="list-style-type: none"> ・企業理念・経営基本方針 ・企業行動規範 ・社員行動指針 ・環境基本方針 ・ユニバーサルデザイン方針 ● 社会・環境レポートダウンロード ● 財団法人 食生活研究会 |
|--|--|---|

パン食系女子のためのコンテンツ 「お散歩パンしよう!」



<http://panjyoshi.jp/>

働く20～30歳代向けコンテンツ 「Konamon café (コナモンカフェ)」



<http://www.nisshin.com/konamoncafe/>

親子向けコンテンツ 「おやこなランド」



http://www.nisshin.com/entertainment/oyakona_land/

その他のコミュニケーションツール

経済、環境、社会性に関する右記の情報を当社ウェブサイトで紹介しています。
<http://www.nisshin.com/>

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 株主報告(日本語/英語) ● 決算短信(日本語/英語) ● 社会・環境レポート ● 安心・安全への取り組み
スペシャルサイト
「あんしんの礎」 | <ul style="list-style-type: none"> ● 児童向けCSR
スペシャルサイト
「こなニレーション」
「こなドベンチャー」
「こなRPG」 |
|--|--|

本社屋上広告看板リニューアル

2011年5月、神田錦町ビルの屋上看板を、創業111周年を機にオリジナルキャラクター「コニャラ」のデザインを採用した広告看板に全面リニューアルしました。
看板の光源は環境に配慮し節電効果のある低消費電力が特徴の白色LED(Light Emitting Diode)を採用した外照式で、周囲の景観にも配慮した色使いとしました。





日清製粉グループ 社会・環境レポート 2011

発行
2011年11月

発行者
株式会社日清製粉グループ本社
東京都千代田区神田錦町
一丁目25番地

問い合わせ先
株式会社日清製粉グループ本社
技術本部 環境管理室
TEL. 03-5282-6570
FAX. 03-5282-6155

ウェブサイト
<http://www.nisshin.com/>



この冊子に使用している用紙の
売り上げの一部は、生物多様性
を保全する活動に寄付されます。



石油系溶剤を植物油系
成分に置き換えた印刷
インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を
出さない水なし印刷方
式で印刷しています。

